

序

膝んで潰れるはかりになつた腫物は、針で突かうと、爪で搦うと或ひは腫つてすりむかうとも、潰れものは潰れる。

日本労働同盟の所謂「内紛」が、遂に「分裂」に至つた経路に對し、或る人は「而かも吾等の指導的立場に在る學者等でも、その原因を總同盟十四年大會に於ける、一般代議員と、中央委員との質問應答の言論態度に求めてある成程、大會に於ける言論態度が、もつミヤドのとれたものであり和黨々の零感氣に尙まれてゐたなら、大會を機會に此内紛問題は、起らなかつたであらう、然し大會が無事に終つたとしても、必らず何んかの機會に爆發するに違ひない程に原因はもつと深い根柢がある。つまり、分裂前の總同盟は膝んで潰れるはかりになつた腫物であつた。

そして吾々は、その腫物の毒薬を、腐敗し墮落した日和見主義幹部の労働組合政策に發見した。彼等は總同盟十三年度大會の眞言の精神を故意に曲解し大衆運動の手に隠れて、總同盟を、完全なる資本を階級の奴隷機關たらしめや